平成28年度　教育行政事務執行点検評価票

所管部課係名	教育委員会生涯学習課生涯学習係

第5次総合計画体系

基本政策（6つの柱＋1）	基本施策（22の心意気）	施策分類
宝「夢と宝」	郷土文化・歴史の伝承	文化財

P（計画）

施策の目的	市民が郷土の文化・歴史に誇りを持ち、守り、伝えること。
施策の計画終了時の目指す姿	□地域固有の文化や歴史を伝える文化財が郷土の宝として適切に保存・管理され、有効に活用されています。
事務事業名	**旧佐賀家漁場母屋屋根補修事業**
事業開始時期	平成28 年度　終期時期　無　有　平成28 年度
会計区分	■一般会計　□特別会計（　　会計）
予算科目	（款）　教育費　（項）　社会教育費　（目）　佐賀番屋調査費
事業意図（目指す姿に近づけるため、ねらいは何で、どのようにしたいのか）	旧佐賀家漁場網倉等外壁修繕
事業対象（誰を、何を）	旧佐賀家漁場（網倉、トタ蔵）
実施内容（手段） H28	（目指す姿に近づけるため、具体的に何を行ったか：実績） 旧佐賀家漁場母屋屋根補修事業：4,583,190円
実施内容（手段） H29	（継続事業の場合、前年度から見直しして実施するもの：予定）

D（実施）

事業費推移（単位：千円）

内訳	平成26年度 決算	平成27年度 決算	平成28年度 決算見込	平成29年度 予算
事業費小計（A）			4,583	
国・道補助				
地方債			4,583	
その他				
一般財源				
人件費計（B）			809	
一般職員（人工）			0.10	
嘱託職員（人工）				
臨時職員（人工）				
年間事業経費（A＋B）			**5,392**	

※一般職員単価には退職手当（組合に加入している場合に負担する額）、共済費、各種諸手当含む

活動指標（事業量、業績結果）

指標名	指標とする理由、考え方	単位	H27実績	H28実績	H29見込
史跡来場者	文化財の公開義務	人	349	404	400

成果指標（基本計画における施策の成果指標と進捗状況）

指標名	単位	基準値	H27取りまとめ数値	H28取りまとめ数値	H29取りまとめ数値	後期（2016）目標値
佐賀家漁場一般解放参加者数	人	207	167	279	136	450

C（評価）	指標数値から分析できる内容	（目標値との乖離状況や傾向など） 文化財、歴史的建造物の保存、活用、郷土文化・歴史の伝承をすることに対する満足度は増加している状況にある。 史跡を訪れる来場者については、積極的なPRをすることにより、歴史的建造物としての理解を深める努力を続ける必要がある。
	目的妥当性	・目的を達成するために有効な手段（事務事業）かどうか ・目的を達成するための成果があがっているかどうか ・行政が関与する必要性が高い事業かどうか 【根拠・理由】 ・国指定の史跡である旧留萌佐賀家漁場が、自然災害により被害を受けたため、予備費により対応し修繕を行った。国指定の史跡であるため、早急な修繕が必要であり、重要有形民俗文化財の所有者であり、且つ史跡の管理団体の指定を受けている留萌市が対応する必要がある。
	主体性	＜評価の視点＞ ・公共サービスか否か、行政が税金を投入して担うべきか否か ・市が主体的に実施すべきか、国、道が主体的に実施すべきか ・市が行うべきか、市民（団体、民間含む）が行うべきか 【根拠・理由】 ・留萌市は重要有形民俗文化財の所有者であり、且つ史跡の管理団体の指定を受けており、両文化財を適切に保存管理し、環境整備の責務をもつ。
	効率性	＜評価の視点＞ ・費用対効果（投入した事業費に見合った効果が現れているかどうか） ・効果的な手法（予算・人員）で実施されているかどうか ・適正な受益者負担となっているかどうか 【根拠・理由】 ・国指定の史跡が被害を受けたため、早急に対処する必要があった。 また、業者については、当該施設の修繕実績があり、構造等を熟知している高田建設に修繕を依頼した。
	改善経過	＜評価の視点＞ ・事業改善の有無（これまでの評価等を踏まえ改善した経過、内容） 【根拠・理由】 屋根を修復することにより史跡としての価値を保ち、多くの見学者に対応できる。

A（次年度に向けた改善）	今後の方向性（課題と対応策）
	・今後、同様の被害があった場合は今回同様早急に対応する。
	事業担当課としての自己評価（所管課長）
	経年劣化と暴風による緊急的な事業であり、今後も史跡としての価値を保つことができたと考えている。
	上記評価に対する部長意見
	緊急的な対応であったが、迅速に対処することができたと考えている。